

石油業界の「需給ギャップ」埋まらず 仁義なき、生き残り戦へ突入か

2014JUL.

MONTHLY MAGAZINE

おかげさまで
since 1958
56年

財界九州7

Since 1958. 九州・沖縄の“今”を知る総合情報誌

No.1078

特集 九州をリードする
Fukuoka
2014

事業モデル 次代を切り開く



トップ対談
小川洋氏 × 石原進氏
福岡県知事 × 福岡経済同友会代表幹事

エリアレポート

- | | | | |
|-----|--------------------|-----|---------------------|
| 佐賀 | ローソンと地元企業で「高齢者施設」 | 大分 | 大分FC「最大12億円」の債務超過解消 |
| 長崎 | リゾートとして注目浴びる「伊王島」 | 宮崎 | 県主導で九州初の「林業アカデミー」 |
| 佐世保 | 「九十九島ブランド」確立へ正念場 | 鹿児島 | 「おれんじ鉄道」の経営支援に道筋 |
| 熊本 | 不足感強かった「オフィス供給」に弾み | 沖縄 | 積年の課題解決に「植物工場」増加 |

次代を切り開く 事業モデル

製造業
▶三松
▶本多機工
▶菱興産業

自動車や半導体など多くの産業が集積する九州の製造業。昨今は国内企業の海外進出もあり、生産力や品質を求めての競争は、海外を巻き込んで激しさを増している。九州のモノづくりを支える地元企業は、いかなる方法で激しい競争下にある現在を乗り切ろうとしているのか。そこには、それぞれの経営努力により独自の経営スタイルを構築し、実践している姿があった。各社の事例をみていく。

九州のモノづくりを支える地場ならではの「知恵」 技術・人材を「精錬」し「ニッチ」で商機拡大

円安効果で業績復調も 企業努力続ける地場企業

安倍政権の発足後、為替が円安に転じたことで、不況下にあえいでいた国内製造業は急速に息を吹き返した。このアベノミクス効果により、2014年度の製造業は比較的好転するという調査結果が、各方面から出されている。

日本銀行福岡支店の「九州・沖縄地域における製造業の設備投資動向」によると、九州の製造業は緩やかな上昇傾向にあると見込むなど、大企業を中心に、業績は好転または好調を維持するという見方が広がっている。自動車関連企業の集積により、九州における製造業のウエートは、いっそう高まり、基幹産業としての役割を担うだけに、九州経済にとっても好材料と言えよう。

一方で、モノづくりを支える地

元中小企業は「景況が好調だからというこ

とにあぐらをかいていては、他社との競争にすぐに遅れを取る」（地場製造業トップ）というように、さらなる技術力の向上に向けた研さんを積み続けている。各社の企業努力が、九州の製造業を支えていることは言うまでもない。ここからは、その地元製造業の取り組みをみていく。



製造業は九州経済を担う産業の一つだ

小ロット製造代行サービスで 業績を拡大した三松

板金加工メーカーの三松（福岡県筑紫野市、田名部徹朗社長）

いる。創業当初はタバコ乾燥機の開発で業績を拡大し、その後受注分野を広げていく中で、部品だけではなく商品の企画開発、設計、エンジニアリングの分野にも、クライアントのニーズがあることがわかった。田名部社長が入社した96年以降、同社はこのスタイルを強化し、小ロット製造代行サービスを確立させた。田名部社長は、クライアントの業務をカバーすることで、より大きな信頼を得ることができた」と話し、特にクライアントの繁忙期のニーズが高い。「クライアントの縁の下力持ちの役割を担うことを自負している」（田名部社長）という。

ただ、このスタイルを実現するためには、クライアントが求める商品の品質をクリアできる技術力を持つていなければならぬ。そこで同社は社内に「三松大学」を創設し、溶接工など社員の育成を強化、クライアントの幅広いニーズに対応できる人材の育成を強化した。特に優秀な技術を持つ社員は「三松マイスター」の称号を与え、社内でも重要な業務を担っている。小ロット製造代行サービスの確立で、同社は現在「社内に複数の製造関連企業が何社も入っている



3Dプリンターの導入で作業行程が大幅短縮（本多機工）



技術者育成を強化する三松

**ニッチとグローバル化に
迅速対応する「本多機工」**
産業用特殊ポンプの設計、製造、販売などを手掛ける本多機工（福岡県嘉麻市、能造寺健介社長）。1951年創業の同社は、ニッチな分野とグローバル化に活路を見出し、現在では60カ国以上に取引相手を持つグローバル企業に成長した。

よゆうなスタイル」（田名部社長）になっている。3D設計やNC加工、OEM、塗装など、多くの専門分野を持つ部署を有しており、それぞれがクライアントに対応するだけでなく、設計や図面作成などから溶接、塗装、組み立てまでをワンストップで行えるスタイルを構築している。これにより、1日単位で異なる数量の発注があっても対応ができるという。

ニッチな分野とは、大手が手掛けることが少ない特殊仕様、少ロットの需要分野である。大手が選取と集中」で汎用品製造に力を入れる中、同社は汎用品に加えニッチ分野にも力を入れ、ポンプソリューション」を提供してきた。また、海外でのポンプ需要が高まる中、留学生を積極採用することで海外ニーズへの対応力向上、ネットワークを構築し、海外展開への足場を築いていった。164人の社員には、フランスやドイツ、中国、スリランカ、マレーシアなどの出身者が含まれており、国際色豊かである。

ニッチ分野でのニーズはさまざま。JIS規格に沿って製造している製品を納入先の国の規格に合わせてリメイクしたり、ポンプ内に流す液体の粘度や温度に耐えられる耐久性を持たせたりと、ニーズに合った対応力が求められる。長い間に培った技術力が、ポンプの進化」に対応しているが、より対応力を向上させるため、同社は人材の採用や活用工夫を凝らしている。